

Alkaline phosphatase is useful for predicting giant cell arteritis complications in patients with polymyalgia rheumatica

アルカリフォスファターゼはリウマチ性多発筋痛症における巨細胞性動脈炎合併の予測に有用である

山下 諒

本研究では東京慈恵会医科大学附属第三病院に通院歴のあるリウマチ性多発筋痛症 (PMR) 患者 128 人を対象に、巨細胞性動脈炎 (GCA) 合併の予測因子を調査しました。アルカリフォスファターゼ (ALP) の中央値は GCA を合併しない PMR 群で 187.0 U/L であったのに対し、GCA 合併 PMR 群では 242.0 U/L と有意に GCA 合併 PMR 群で高値を示しました。ROC 曲線解析の結果をもとにカットオフ値を 214 U/L で設定すると感度 0.88、特異度 0.55 で GCA の合併を予測することができました。多変量解析でも同様に ALP が GCA 合併の有無を判定するのに有用なバイオマーカーであることが示されています。本研究の結果から、PMR 患者において ALP は GCA 合併の有無を判定する際に有用なスクリーニングツールである可能性が示唆されました。

<https://doi.org/10.1093/mr/roae101>

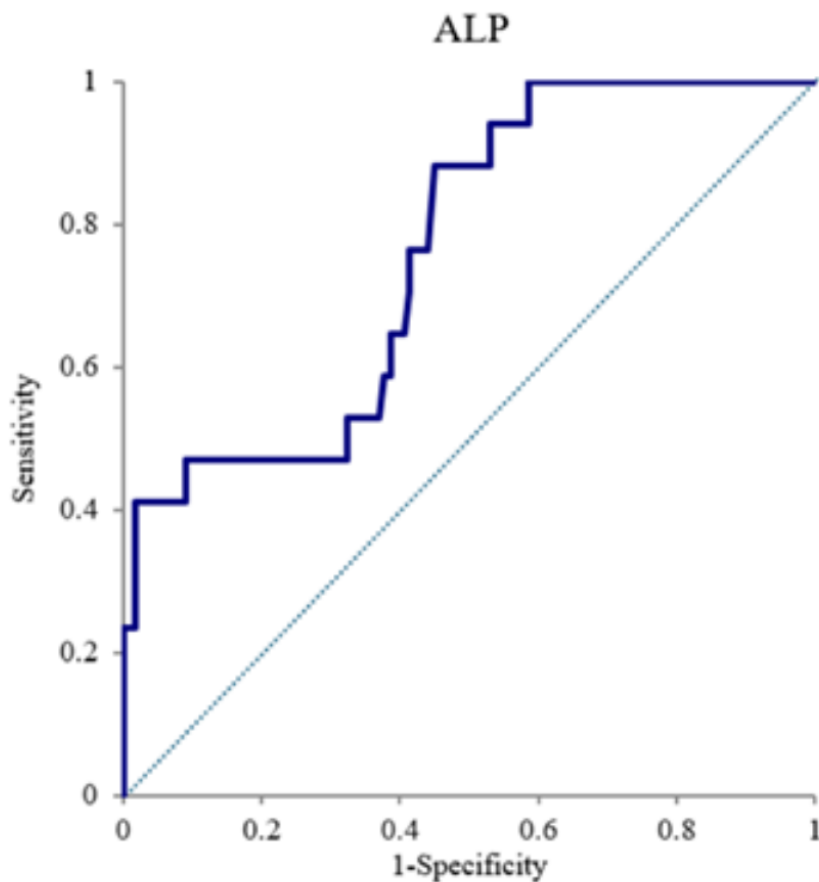


Figure 1. ROC curve of ALP for diagnosing GCA in patients with PMR.

Yamashita R, et al. Mod Rheumatol 2025;35(3):529-534, Figure 1